

ぱちんこ依存問題相談機関 特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク
ぱちんこ依存問題相談機関からのメッセージ



さくら通信

67号

さくら通信とは… 小さなつぼみに過ぎない私たちの活動が、桜前線のように南の島沖縄から日本中に回復支援の輪となって広がり、これらを必要とする人たちに届くことを願って名づけました。

8月、9月は次々にやってきた大型台風により振り回される日々が続きましたが、10月に入り穏やかな天気が続きホッとしているところです。しかし、事務所のなかでは、相談電話の嵐が吹き荒れ、10月は先月より100件以上も増加し、開設以来初めての月300件を超えました。グチャいやたずら電話ではなく、のめり込みの相談そのものの件数が増加しているため相談員は息つく暇もありません。嬉しい悲鳴が続いてはいますが、悲鳴もあまり長いと力尽きますので心配です。相談業務に興味ある方は、ぜひご連絡下さい。急増する相談に対応しつつ、メディアの取材、講義や講演、認定NPO法人取得の準備、活動支援のお願いなどにスタッフ全員で取り組んでいます。ニューズレターの編集も思うように進まず苦労していますが、今回は認定NPO法人ワンダーポートの中村施設長に寄稿していただきました。原稿の催促に「サラ金屋の取立てより厳しい…」とつぶやかれたとか。ぜひお読みください。

CONTENTS

- P1・・・RSN News
- P2・・・RSN月次データ報告
- P3・・・電話相談の現場から
- P4～5・・・特集 ワンダーポート寄稿
- P6・・・RSN代表から
- P7・・・トピック&インフォメーション
- P8・・・情報掲示板

RSN News

【報告】 東京都遊技業協同組合がRSNを視察(2012/10/29)

2012年10月29日に東京都遊技業協同組合(都遊協)から阿部恭久理事長はじめ10名の方々が、活動視察のためRSN事務所に来訪されました。相談電話が続く慌ただしい中ではありましたが、スタッフと相談状況や相談内容、RSN啓発用ポケットティッシュの影響、業界への要望などについて情報や意見の交換を行いました。

当日(月曜日)は、西村代表が診療のため同席できませんでしたが、前日に食事をしながら都遊協の皆様と意見を交換する機会を作っていただきました。

遠路はるばる視察に来ていただいただけでもありがたいのですが、今回は都遊協より30万円の寄付金を頂きました。RSNの活動に有意義に使わせていただきます。

パチンコ依存問題への介入や解決支援の実際を、言葉や文字で説明することは、そう簡単ではありません。分厚い相談記録のファイルを手にとってもらえば、この問題の重みが伝わってくると思います。南の島沖縄と遠方ではありますが、興味ある方はぜひ覗きに来てください。お待ちしております。



【報告】 第5回NPO法人依存学推進協議会シンポジウムのパネリスト参加(2012/11/10 東京)

2012年11月10日(土)にNPO法人依存学推進協議会が主催する第5回シンポジウム『ギャンブルに社会はどのように向き合うか』が東京にて開催されました。シンポジウムのパネリストとして西村代表が参加し、RSNの取り組みを交え、ギャンブル問題の対策に必要な視点や方法について意見を述べました。基調講演は、佐々木一彰氏が「カジノの社会的コストとその対策について」、マリーナ・ベイ・サンズ社ジョージ・タナシジエビッチ氏が「米国ラスベガス・サンズ社の取り組み」をテーマに行われました。今回は、娯楽産業が地域の文化的・社会的基盤の整備と地域に対する懸念やリスク対策を同時に展開するための視点が提示され、大変興味深い内容でした。RSNは、カジノの賛否については中立的な立場をとっていますが、カジノ議論の中で、必要とされる依存問題の対策等については、求められれば発言をしていきたいと考えています。

ぱちんこ依存の相談は **050-3541-6420** 月～金 10時～16時(土日祝祭日除く)

2012年10月の電話相談のデータ報告

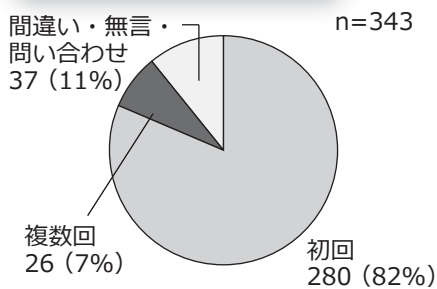
10月の相談件数は343件あり、前月より108件増加しました。開設以来、初めて月の相談件数が300件を超えました。今年度累計相談件数も4月からの7ヶ月間で昨年度の相談件数を超え1,155件となりました。

毎朝10時の相談開始直後より電話のベルが鳴り響き一日が始まります。特に午前～昼の時間帯、夕方3時以降に相談が集中する傾向があり、全相談員が相談対応中で新たな電話に対応できないこともしばしばです。多い時には、日に27件の相談が寄せられた日もありました(過去2番目の相談件数)。相談件数の急激な増加に相談員は戸惑いや疲労感と戦いながら、今日も相談を受け続けています。先月のさくら通信でもお伝えしましたが、相談件数増加の要因は、この夏以降のパチンコ・パチスロ業界各団体による多彩な啓発活動等による効果が依然として大きく、啓発活動の広がりや、問題を抱える方に確実に届いているようです。さらに今月は10月12日付「南日本新聞」(鹿児島県)、10月25日付「ほーむぷらざ」(沖縄県)といった地方メディアにRSNの活動が紹介されたことで、家族・友人の立場の方からの相談も増加しました。

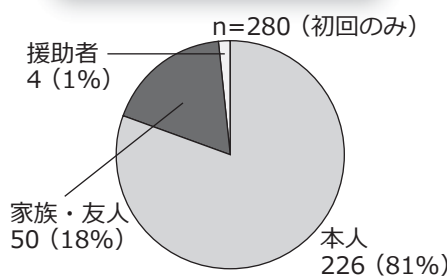
2012年10月1日～2012年10月31日 相談件数 343件

2012年4月1日～2012年10月31日 今年度累計 1,155件 開設からの総件数(2006年4月～) 7,795件

① 相談回数



② コーラー関係性



③ 性別

性別	件数	割合
男性	168	74%
女性	58	26%

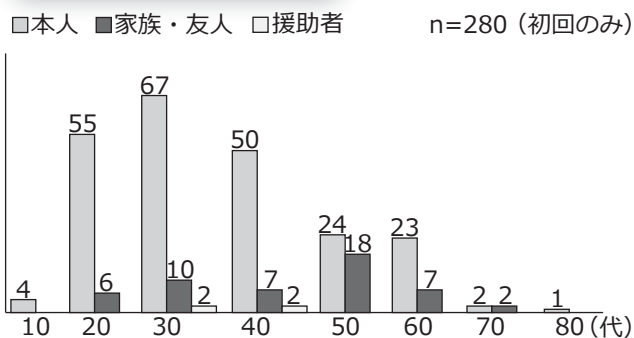
性別	件数	割合
男性	16	32%
女性	34	68%

①相談回数…総件数343件の内、初回相談280件(前月+95件)、複数回26件(同+6件)、間違い・無言・問い合わせ37件(同+7件)でした。総件数は前月より108件増加し、その内95件は新規の相談者でした。

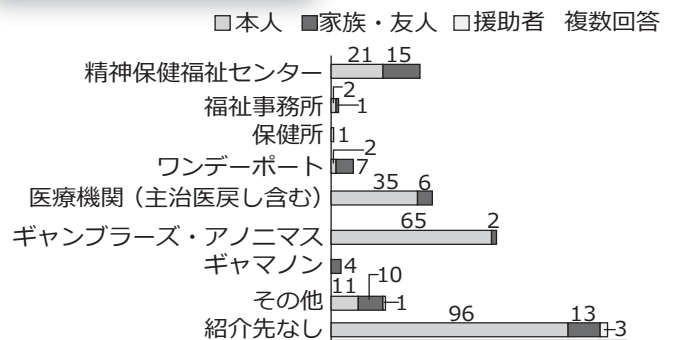
②コーラー関係性…初回相談の内、本人からの相談は226件(81%、前月+62件)、家族・友人50件(18%同+29件)でした。前月減少した家族・友人からの相談は増加に転じ今年度では最も多い相談件数となりました。これは地方紙にRSNの活動が取り上げられた影響と考えられます。

③性別…本人性別は、男性168件(74%、前月+51件)、女性58件(26%、同+11件)でした。比率は、ほぼ前月と同じでした。家族・友人相談では、男性16件(32%、前月より+13件)、女性34件(68%、同+16件)でした。家族・友人の前年度平均男女比13:87と比べて今月は男性比率が高くなりました。

④ コーラーの年齢



⑤ 紹介先



⑥ 経路

経路	本人	家族・友人	援助者	合計
ホール内ポスター	124	11	0	135
インターネット	18	15	1	34
雑誌	19	0	1	20
新聞	1	8	0	9
他の相談機関	0	3	0	3
その他	52	11	0	63
不明・拒否	12	2	2	16
合計	226	50	4	280

④コーラー年齢…全年代とも増加傾向が続いています。今月は60代本人からの相談が増加しました(前月の2.3倍)。啓発活動が相談者の年代層の広がりにもつながっているようです。

⑤紹介先…本人からの相談が増加しGAを紹介するケースが増加しました。GAの紹介は、画一的なパターンにならないよう背景に注目し慎重に対応しています。

⑥経路…新たな啓発活動を情報源とし経由した相談は、「ホール配布ティッシュ」38件、「ホール内ステッカー」10件、「折込チラシ」2件でした。またホール従業員からRSNを紹介されたケースが3件ありました。

相談員企画:特集「RSN相談現場の実際」

2006年4月の電話相談開設以来、これまでに8千件近い相談がRSNへ寄せられています。相談件数の増加に伴い、これまで以上に様々な背景を抱えた方からの相談が寄せられるようになっていきます。今回は「RSN相談現場の実際」と題して、この数か月間に寄せられたケースの一部を取り上げ、相談員の日々の悩みどころを紹介したいと思います。個々のケースについては、今後のニュースレターのケーススタディなどで取り上げていきたいと考えています。なお、ここに提示したケースの内容は相談者が特定できないよう一部加工してあります。



Aさん(本人) 30代 男性

実家で生活中Aのさん。パチンコは20代から開始、過去に自己破産経験あり。自己破産すればパチンコはやめられると考えたが、全くやめられない。お金があるとパチンコに行ってしまう。何ヶ月も行かないこともあるが、一度始めると毎日通い続けてしまう。転職を繰り返して現在は求職中。気分の浮き沈みが激しく自分ではどうにもできない。通院していたこともあるが、医療費が支払えないため中断した。家族との関係は悪く家に居場所がない。死んだらどれだけ楽になることだろうと思いつつ自殺未遂をしたこともある。医療機関や相談機関を利用したが、GAを紹介されただけだった。相談しても同じ答えの繰り返しでもう相談したくない。とにかく今苦しくてとてもつらい。依存症は治りますか？ どうしたら良いのでしょうか？

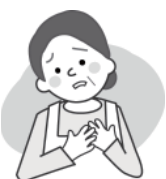
◎相談員の悩みどころ



表面化している問題は、パチンコと深い関係があるのは確かだが、相談者の状態や行動(自殺企図)からは問題の背景には他の病理の存在を感じる。緊急性もあり、適切な医療サービスの利用が優先されるが、Aさんの相談機関や医療への信頼は低く、再度相談するように説得したが、一度失った信頼関係を再構築するのは難しかった。特に電話相談という限られた時間の中で本人への危機介入は、大変難しい。

Bさん(家族) 50代 女性 (対象者 弟48歳 男性)

精神疾患を抱える相談者Bさん、母親と妻と別居中の弟48歳(対象者)と3人で生活。長姉は結婚し独立。弟は20年前の結婚したが、借金を繰り返し、その度に妻が肩代わり。問題は改善せず、離婚を前提に別居し、半年前にBさんが住む実家に戻る。弟は、母親名義であった実家の名義を変更し、実家を担保に多額の借金、借入した金を、借金返済とパチンコに使いつぶす。弟の収入では返済は難しいが、現在もパチンコを続けている。長姉は連帯保証人になっているが、母親も長姉も危機感がない。このままでは住むところもなくなり路頭に迷ってしまう。何か問題改善できる方法はありますか？



◎相談員の悩みどころ

ギャンブル問題が表面化し家族が把握したときには問題が深刻化しているケースが多い。特に家族は相談する事を躊躇することが多い。また、相談できる機関の情報が乏しい事も問題を長期化させる要因となっている。返済ができなくなることで家族全員の生活が破綻してしまうケースでは、本人のギャンブル問題に焦点を当てるべきか、家族の生活を守ることを優先すべきか電話相談での限界を感じる。



Cさん(妻) 40代 女性 (対象者 夫40代 会社員)

10年前から繰り返し起こる夫のスロットによる借金問題によって、離婚も考え相談。「会社のお金を落とした…」といった嘘から始まり、「家計の使い込み」「両親からの借金」「サラ金の利用」と問題は次々に起こり始め、最近では借金返済できないと会社からお金を借りボーナスで返済する。家計への影響は大きく、破綻状態。会社には、本人の問題を説明しお金を貸さないよう伝えるが、集めたお金を使い込まれると困るからと断られる。夫の両親に相談するも、「あなたは養ってもらっている立場、感謝しなさい」と一方的に責められる。相談者は、子どもを出産してから体調を壊し、更年期も重なって仕事はできる状態ではない。何をどうしたら良いかわからない。離婚も考えているが、小学生の子どもを抱えるひとり親の生活には強い不安を感じる。

◎相談員の悩みどころ



家族が本人のギャンブル問題を助長させていることはよくあるが、職場の対応が、問題を助長し、長期化させている場合もある。家族が長い間、本人に振り回されてきたことで、相談につながった時には問題改善する体力や気力が残っていないことも多い。問題を改善するためのキーパーソンが疲弊していると、相談員としても提案する事に躊躇してしまうこともある。少しでも早い相談を願うばかりである。

ワンダーポートが考える問題解決の方向性

RSNの電話相談には、様々な問題レベルの方々からの相談が寄せられる。早期介入の窓口を担うRSNと、通所・入所プログラムなどによって社会に戻る支援を行うワンダーポートは、問題あるギャンブラーの問題解決支援という同じ目標を持ち活動を行っている。しかし、RSNの相談者をワンダーポートに紹介することは、それほど多いわけではない。相談や支援の現場では、個々の問題レベルや生活状況、そして問題の背景によって問題解決のための提案は大きく異なってくる。

RSNの目線から離れ、ギャンブル問題を持つ当事者を受け入れる施設の立場から、どのような人たちが、ワンダーポートのプログラムに向いているのかについて施設長の中村努さんに寄稿していただいた。

【寄稿】ワンダーポートのプログラムをお勧めしたい方

NPO法人ワンダーポート 施設長 中村努

「息子がギャンブル依存症になっているんですが…」

ワンダーポートに寄せられる電話相談では、はじめにこう話すご家族は少なくありません。お母さんは、息子さん「ギャンブル依存症」という悪魔に侵されるようなとらえ方をしています。

ワンダーポートでは、このようなご家族には、「ギャンブルにハマる背景は様々で、起きている現象を十把一絡げに病気であるととらえることでは解決はできません」と説明し、安易に「病気」と考えないほうがよいと提案しています。「依存症」や「病気」と考えることは、何らかの支援が必要ということでプラスの側面もありますが、問題解決方法が画一的になってしまうというデメリットもあると考えています。

私たちは、そのデメリットの大きさを考えて「ギャンブル依存症」という言葉は使わないようにしています。問題解決へのアプローチは、個別的に考えます。ギャンブルにハマる前のエピソードや、今の生活状況などを材料にして検討していきます。ギャンブルそのものの行動ではなく、背景を見ることが重要です。

一人ひとり解決方法は違いますが、いくつかのタイプに分類して問題解決の方向性を考えることは可能です。今回は、ワンダーポートの利用という側面から、3つのタイプに分類して、ギャンブルにハマっている人の違いを説明いたします。

私たちは今、その人の生活を3つの要素に分けて見ることを問題解決の糸口にしています。「暮らし」と「仕事」と「余暇」です。この3つ過去どうであったか、今どうであるかを見ることで、その人の問題解決の方向性を決めることができます。

「暮らし」とは……お金の使い方はどうか。独り暮らしの人は、家賃、水道光熱費、携帯料金などは払っていたか。実家で生活する人は、生活費を入れていたか。

「仕事」とは……仕事はしていたか、どのような仕事をし

ていたか。仕事をしていないとしたら、ギャンブルが原因か、他に原因はないか。

「余暇」とは……友だちは多いか、少ないか。趣味はあるか、ある場合、どのような趣味か(1人でやる趣味の場合ギャンブルへのリスクは高いと判断します)。

①2つないし、3つが問題ない(出来ている)

ギャンブルをやり過ぎていても、この3つのうち2つか3つが出来ているのであれば、それほど問題はありません。やり過ぎに注意するレベルです。本人の自覚を促すだけで、問題となるレベルには至らない可能性もあります(コントロールしてギャンブルを楽しむことができるのかもしれませんが)。本人がやめたいと思っているのであれば、GAの参加を勧めます。

②ギャンブルをやる前から2つないし3つとも問題あり

ギャンブルをやる前から先を見通したお金の使い方ができない、対人関係が苦手で仕事はアルバイト程度で転々としている。このタイプは、ギャンブルを始める前から、生活上の問題を抱えていると見ることができます。ギャンブルの問題と決めつけず、生活全体の支援が必要だと思えます。

③ギャンブルをやる前は2つないし、3つ出来ていたが、今は3つとも崩れている

ギャンブルをやる前はきちんと仕事をしていたが、ギャンブルで借金をして会社を退職してしまった。妻にも見放され離婚。趣味もやらなくなってしまい、今は日払いの仕事をしながらかギャンブルを続けている。

このタイプは、否認があり、なかなか問題を認めないかもしれません。失ったものが大きいために、現実逃避するギャンブルが必要であり、ギャンブルの悪循環から離れることはとても難しいです。GAのプログラムが効く可能性もありますが、簡単には足を運びませんし、運んだとしても「自分は違う」と言う可能性が高いと思えます。

ワンデーポートの利用を勧めるのは②と③のタイプです。②のような方には、生活支援や就労支援を中心に自立の方法を個別に考えます。場合によっては障害者手帳取得など福祉的な支援を提供します。GAは必要ではありません(逆効果です)。①と③のタイプは、元々同じで、①はまだそれほど崩れていない、③は崩れているという違いがあります。③の人は、過去を受け入れ、新しい価値観が人生の再出発には必要です。今までの生活から離れて、人生をリセットできるワンデーポートでの生活はとても有効に働くはずです。このタイプは力がある

分、本人にワンデーポートを勧めても簡単には利用はしません。家族や周囲の人がワンデーポートのプログラムの有用性を知った上で、本人に強い働きかけや介入が不可欠です。

すべてのギャンブラーがこれらの3つのタイプで説明できるわけではありません。ただ、最低限こうした違いがあることを理解してもらえれば、ワンデーポートの利用はもちろん、周囲が本人の支援を考える上でも、あるいは、本人が自分の問題を理解する上でも、ヒントになると思います。

中村 努(なかむら つとむ) 認定NPO法人ワンデーポート理事、兼施設長

1967年生まれ。國學院大学文学部文学科卒。10代からギャンブルにはまりはじめ、29歳のときにギャンブルをやめ、32歳のときワンデーポートを立ち上げる。著書(共著)に『ギャンブル依存との向きあい方』(明石書店)。

・・・RSNからのひとこと・・・

RSNには、ワンデーポートの分類の①2つないし、3つが問題ない(出来ている)問題あるギャンブラーからの相談が多く寄せられます。相談者の多くは、問題を抱えながらも、仕事を持ち借金を返しながらパチンコ・スロットを続けている方、問題だとは思っているのだけれど自分のやり方ではどうも上手くいかず不安になっている方など、「暮らし」「仕事」は何とか維持できているが「余暇」がどうしても上手くいかない段階で相談につながってこられます。RSNの場合、相談者の大多数はまだパチンコ・パチスロを続けている(続けることが何とかできている)方で、なおかつ自分から相談につながろうという行為を選ぶことが出来ていることが①レベルの方々が主となっている要因だと考えられます。相談啓発をパチンコホールに集中させ、問題を持つ本人から相談が寄せられるように取り組んできたことが、何とか「暮らし」「仕事」が崩れ落ちる前の段階での介入につながっているようです。

ギャンブル問題に限らず、問題が深刻化するほど、相談にはつながり難く、相談につながらない人ほど問題が深刻化しやすい傾向があります。早期介入は①のレベルに集中的に働きかけることが効果的だと考えます。しかし、電話相談では、問題レベルが重篤化した方や、相談につながらない方の問題解決にはごく限られた力しか発揮することができません。通所や入所のプログラムの提供による社会復帰の支援、継続的な関与による問題行動の再発防止支援(リラプス・プリベンション)が準備されてこそ、早期介入はギャンブル問題のセーフティーネットとしての役割を効果的に発揮できます。

支援を必要とする方をワンデーポートなどのより高度なプログラムを持つ社会資源につなぐ努力を続けるとともに、そのような高度の問題解決支援を必要とする方を一人でも減らし、新たに発生させないように遊技業界への働き掛けを続けながら取り組んでいきたいと考えています。



ワンデーポートとは・・・

ギャンブルに問題がある人の回復支援施設として2000年に設立。入寮制の施設で共同生活を送りながら問題に向き合う。3カ月の基礎プログラム後に就労プログラムがあり、入所平均期間は約1年となっている。プログラム中心ではなく、暮らし、仕事、余暇の使い方を包括的な視点で見つめ直し、一人ひとりの背景に合わせた方法で利用者を中心とした支援の提供を行っている。国内の依存関連施設の中では唯一「認定NPO法人」の認可を受けて活動を行う。これまでに約350名が利用している。また、家族に向けた支援としては、家族セミナーやミーティングも毎月開催。

神奈川県横浜市瀬谷区相沢4-10-1 電話 045-303-2621
電話相談：平日10:00～17:00
HPアドレス <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>

ワンデーポート企画のセミナー・イベント情報

◎家族セミナー

「ギャンブル依存との向き合い方」

- 日程 毎月第一日曜日(13:00～15:30)
- 場所 神奈川県司法書士会館
神奈川県横浜市中区吉浜町1
- 参加費 一回 2,000円
- 対象 家族のみ、本人は参加できません
※参加申し込みはワンデーポートまで

◎家族ミーティング

「ギャンブルの問題と発達の問題を併せ持つ方の家族を対象としたミーティング」

- 日程 毎月第一金曜日(19:00～20:30)
- 場所 横浜市健康福祉総合センター
神奈川県横浜市中区桜木町1-1
- 参加費 無料
- 対象 家族のみ ※参加申し込み不要

～ RSNから～

認定NPO法人取得に向けた取り組みと協力のお願い

RSNは、現在NPO法人として活動していますが、法人としての活動基盤を確かなものとするため認定NPO法人の仮認定を受けるべく申請を行っています。仮認定は12月の県による監査の後、年明け早々には認定される見込みとなっています。

仮認定は、認定NPO法人の認定基準のハードルが高いため、一定の条件を満たせば暫定的に認定を行い、仮認定期間中に認定条件を満たせば、正式な認定NPO法人として承認する制度です。仮認定期間は3年間あり、仮認定期間の延長は認められません。正式な認定NPO法人となるためには、国税庁が定めるパブリックサポート・テスト(PST)のクリアが条件となります。

RSNは、PSTクリアの絶対値基準(この条件を満たせば確実に認定される)である年間100名以上の寄付者(賛助会員を含む)の確保を目指しています。年間3,000円以上の寄付または賛助会費の納入者(個人・団体)が100名(団体)以上継続できれば、PSTの絶対値基準を満たし、本認定を受けることが可能となります。ぜひご協力ください。

市民活動の支援基盤が弱い日本では、寄付者100名以上の条件を満たし認定を受けたNPO法人は現在のところ無いとのこと。PSTの絶対値基準を満たし認可を受ければ、我が国の社会支援の先鞭となるものと考えております。認定NPO法人化に向けたご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※認定NPO法人のパブリックサポート・テストと賛助会費・寄付金

年間3000円以上の寄付者を100名以上継続できれば絶対な条件を満たします。

会員種別において、賛助会員および特別会員は、議決権がないためその会費は、寄付金とみなされます。会員は、個人、団体のいずれでもかまいません。正会員の会費は、寄付金とはみなされません。会員には、会費の受領証明の発行が可能です。

認定NPO法人の認定後は、寄付に対しては損金算入が可能となります。賛助会費は、損金算入はできません。寄付金に対しては、寄付金の受領証明を発行を行います。

たまに西村代表のコラム

RSNの活動が遊技業界に認められ(?)ここ数カ月急激に慌ただしくなっている。パチンコホールの組合から生まれたプロジェクトでありながら、活動7年目になって遊技業界に認められるというのも不思議な気はするが、遊技関連団体と言っても、ホールの団体、経営者団体、遊技機の製造団体、遊技機の流通団体などなど産業規模が大きく多種・多様であり、依存問題への関心や意識も、問題に直接的に関わる機会の多さによってずいぶん異なるため致し方ない。

巨大な遊技業界ではあるが、RSN開設時から遊技関連産業の団体に広くこの問題を共有してもらおうことを目指して取り組んできた。その甲斐あって、昨年には遊技関連産業14団体からなるパチンコ・パチスロ産業21世紀会から活動支援を受けることができるようになった。パチンコホールの組合であり、RSN設立の母体となった全日遊連の粘り強い努力あっての成果でもある。世界を見渡しても、法的義務を負わず遊技産業が自ら依存問題の支援窓口を作り、さらに関連団体のほぼ全てが揃ってその活動を支援している例はなく、世界に誇れる取り組みだと思っている。

私の自負はさておき、ここ最近のRSNへの支援拡大は、現実味を帯びるカジノ関連法案の成立と行政指導強化の業界外からの圧力が背景にあると感じている。今までRSNを支える中核を担っていただいている遊

技業界の理解者の方々が有する高い問題意識は、世論や行政指導などの外圧よりも業としての誇りを守る気持ちから生まれていることに常々感心させられてきた。最近、外圧によるパフォーマンス的な取り組みにRSNが組み込まれていると感じることも少なくない。ただ、それで良いのではないかと思っている。きっかけはどのようなものであっても、この問題に目を向け、共に行動することで、問題の意義について理解してもらえれば良いのである。むしろ問われているのは、私たちの活動が、目を向けた人たちに有意義で魅力的なものとしての印象を残し、支援に値すると評価される質的レベルを有しているかどうかである。遊技産業が縮小するなかで、負の問題に向き合ってもらうことは容易なことではない。その壁を越えてもらうことは、私たち支援を受ける側の課題である。

風営法の指導強化や不正防止の徹底など昨今の行政指導は、依存問題の抑止につながる効果を期待できるものが多い。その反面、一物一価、等価交換の徹底などは、その趣旨は納得できても、低貸玉営業など利益を犠牲にし本来の娯楽の姿に回帰しようとしている健全化の流れを止めてしまうのではないかと不安を感じている。行政の指導力が大きな効果を生んでいるだけに、その影響を見守っているところである。(RSN代表西村直之)



今月のトピック&インフォメーション

アディクション関連問題従事者研修会に 西村代表が講演（滋賀県）

2012年12月13日(木)に滋賀県精神保健福祉センター主催の「アディクション関連問題従事者研修会」講師としてRSN西村代表が講演を行います。アディクションの「何故」が分かる基礎編！本人や家族の気持ちは？支援者の視点は？そんな疑問が分かる研修会を滋賀県が開催。

「問題ギャンブリングって何？」
「薬物関連問題の捉え方と回復支援のあり方」
「アディクト」の回復を地域で支える視点」
講師/辻本哲士 氏(滋賀県立精神保健福祉センター副所長)
講師/西村直之 氏(RSN代表)
日時 2012年12月13日(木) 10:00～16:00
場所 草津市立市民交流プラザ5F 大会議室
滋賀県草津市野路1-15-5
対象者 行政・医療・司法・福祉・教育機関に所属する支援者
参加費 無料
問合せ先 滋賀県精神保健福祉センター
TEL:077-567-5010 FAX:077-566-5370

RSN 広報活動 取材対応一覧

- 2012年9月20日(木)
南日本新聞より西村代表が電話での取材を受ける。
10月12日に掲載
- 2012年10月10日(水)
(株)タイムス住宅新聞社発行 週刊ほ〜むぶらぎの取材
を西村代表が受ける
10月25日発売号に掲載

平成 24 年度三重県薬物講演会 西村代表が講演（三重県）

2012年12月26日(水)に三重県こころの健康センター・三重ダルク共催の「三重県薬物講演会」が開催されます。RSN西村代表が「多様な背景から依存症へ」と題した講演を行います。

(主催者案内より)
依存症に至る背景は多様であり依存の問題がある人と一括りに考えるのではなく、地域の一人の人間として、地域で生活していくのにはどのようなサポートが必要か？地域で連携し、役割を担っていけるような社会を目指すために私たちにできることは何なのか？実際に関わっているケース等を交え皆様と一緒に考える講演会です。興味のある方はぜひご参加下さい。
日時 2012年12月26日(水) 14:00～16:30
場所 三重県総合文化センター 中研修室
(三重県津市一身田上津部田1234)
参加費 無料
問合せ先 三重県こころの健康センター 059-223-5243
NPO法人 三重ダルク 059-222-7510

その他

- 平成 24 年度厚生労働省班研究『病的ギャンブリング（いわゆるギャンブル依存）の概念の検討と各関連機関の適切な連携に関する研究』班会議出席（12/16 東京 西村代表）
- (財)社会安全研究財団 パチンコ依存問題研究会 研究員就任（12/1 西村代表）

RSNに届いた寄贈品一覧(10月1日から10月31日到着分)

到着日	品名(書籍名)	寄贈いただいた企業・団体名	RSN紹介
10月 1日	遊技報知 第421号～第422号	遊技報知新聞社	☆
10月 2日	遊報 9月号 No.256 10月号 No.257	全日本遊技事業協同組合連合会	
	パチンコオリジナル実戦術 パチンコ実践ギガMAX	(株)ガイドワークス	
	週刊アミューズメントジャパン 第349号～第353号	(株)アミューズメントプレスジャパン	☆
	Toyusho Vol.35	東日本遊技機商業協同組合	☆
10月11日	回胴遊商 Vol.101	回胴式遊技機商業協同組合	
10月15日	日遊協 10月号 Vol.258	社団法人 日本遊技関連事業協会	
10月17日	娯楽産業 10月号	(株)娯楽産業協会	☆
	南日本新聞	南日本新聞社	☆
10月19日	全商協 10月号 Vol.11	全国遊技機商業協同組合連合会	☆
10月22日	ぱちかる 12月号 通巻46号	イープロジェクト株式会社	☆
	Green Belt 11月号 Vol.561	(株)アド・サークル	
10月26日	レジャー情報 11月号	(株)レジャー情報新聞社	☆
10月29日	週刊ほ〜むぶらぎ 第1322号	(株)タイムス住宅新聞社	☆
	月刊遊技経済 10月号 第1289号	(株)遊技経済	
	遊技通信 11月号 No.1397	(株)遊技通信社	☆

※全国のギャンブリング、薬物、アルコール問題の相互援助グループ・回復支援施設10カ所からニュースレターを頂きました。

各部署からのヒトコト報告

- 仮認定に向けての監査がいよいよ12月に行われることが決まりました。ただ今、監査に向けて準備中です。 総務部 武島
- 10時に相談回線が開くと同時に電話が鳴り響く日々が続いています。相談者の多さに驚いています。 相談部 杉山

情報掲示板

家族教室 / 相談

都道府県	名称	日程	時間	主催	問合せ先
宮崎県	依存症専門診療相談	毎月第1、3月曜日	午後	宮崎県精神保健福祉センター	0985-27-5663
	ギャンブル依存症者の家族のつどい	毎月第1木曜日	13:30～15:30		
佐賀県	ギャンブル依存症・家族教室	毎月第4火曜日	14:00～16:00	佐賀県精神保健福祉センター	0952-73-5060
長崎県	家族のつどい	12月18日(火)	13:30～15:30	長崎子ども・女性・障害者支援センター	095-846-5115
山口県	ギャンブル依存症の家族相談	まずは電話相談をご利用下さい		山口県精神保健福祉センター	0835-27-3388
鳥取県	「家族教室」	要問合せ		鳥取県立精神保健福祉センター	0857-21-3031
愛媛県	依存症に関する相談	月～金	8:30～17:15	愛媛県心と体の健康センター	089-911-3880
三重県	依存症問題家族教室	偶数月第3金曜日	14:00～16:00	三重県こころの健康センター	059-223-5243
滋賀県	家族交流会	偶数月第1月曜日	10:00～12:00	滋賀県立精神保健福祉センター	077-567-5010
福井県	依存症を考えるセミナー	毎月第3月曜日	10:00～12:00	福井県精神保健福祉センター	0776-26-7100
石川県	依存症教室	12月10日(月)	10:00～12:00	石川県こころの健康センター	076-238-5761
長野県	依存症家族グループミーティング	毎月第2、第4木曜日	13:30～15:30	長野県精神保健福祉センター	026-227-1810
神奈川県	家族セミナー	12月2日(日)	13:00～15:30	認定NPO法人ワンデーポート	045-303-2621
	依存症電話相談	毎週月曜日(祝日除)	13:30～16:30	神奈川県精神保健福祉センター	045-821-6937
	薬物・ギャンブル問題家族セミナー	12月25日(火)	14:00～16:00	川崎市精神保健福祉センター	044-201-3242
東京都	家族教室	毎月第2週から第4週の木曜日	13:00～15:00	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	042-371-5560
	アルコール・ギャンブル依存症問題でお困りの方へ	毎回金曜日	10:00～12:00	東京都立中部総合精神保健福祉センター	03-3302-7711
	ギャンブル家族教育プログラム	毎月第3金曜日	14:00～16:00	雷門メンタルクリニック	03-5828-3841
埼玉県	ギャンブル依存症の相談	月～金	9:00～17:00	さいたま市こころの健康センター	048-851-5665
北海道	ギャンブル研究会	毎月第2・4火曜日	18:30～20:00	北海道立精神保健福祉センター	011-864-7000

セミナー等

都道府県	名称	日程	時間	主催	問合せ先
沖縄県	依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会in沖縄	1月19日(土)	10:00～12:00	依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会	098-871-9671 (RSN)
	参加費 500円 事前申し込み必要(依存の問題を持つ本人と家族は参加できません)				
神奈川県	依存問題と精神障害	12月2日(日)	16:00～17:30	依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会	048-796-7630 (浦和まほろ相談室)
	参加費 500円 事前申し込み必要(依存の問題を持つ本人と家族は参加できません)				

RSNの東日本大震災の関連支援

①遊技業界関係者向けのメール相談 被災された遊技事業関係者およびそのご家族と、被災者支援、地域支援に関わっておられる遊技事業関係者へ、E-mailによる精神的ケアにかかわる情報・実施方法などについて助言および情報提供。

相談専用E-mailアドレス help@rsn-sakura.jp

※精神保健援助者向けの支援は終了いたしました 被災され、家または職場、採用予定の職を失った精神保健援助職の方々への支援を行ってまいりましたが、平成24年8月末にて本支援は終了しました。これに代わる新たな支援を検討し、提供したいと考えています。

さくら通信 第67号 月刊

2012年11月22日発行

発行

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原 103ルボウYARA2F

電話&FAX: 098-871-9671(事務専用回線)

Email: recovery-support-net@theia.ocn.ne.jp

http://rsn-sakura.jp

お問い合わせや確認のお電話は事務用回線をお使い下さい。